



昭和58年度指定 高指第48号

# (故) 桶川 儀太郎

生年／大正6年 指定技術名／銅器・研磨



そうがたせいどうかきしゃくにつぼがた

## 双型青銅花器尺二壺型

研磨技術による、砂バフ、磨きで高い技術力を有しており、原型に忠実なバフ加工で定評があり第一人者といえる。特に磨きバフは、手の力加減で磨き仕上げられるが、同じ個所を長時間掛けてしまうと素材が微妙に変化し着色時に色むらが起こるため、長年の勤と卓越した技が要求される仕事である。

昭和61年作

素材・技法／青銅・双型鑄造、本焼着色

寸法／高さ38cm×幅33cm×奥行33cm

### 〔表彰・受賞歴〕

昭和52年 伝統工芸高岡銅器振興協同組合経営功労者表彰  
昭和58年 伝統的工芸品産業功労者表彰(中部通産局長)  
昭和61年 高岡市美術展工芸部門奨励賞  
昭和62年 高岡市市民功労者表彰  
平成元年 富山県功労表彰  
平成 2年 勲七等青色桐葉章

### 〔経歴〕

大正15年 父義三郎より焼型仏具製造仕上技術を修業  
昭和 5年 銅器研磨業自営  
昭和26年 高岡研磨工業組合設立に尽力。会長、副会長を歴任  
昭和42年 高岡研磨工業組合後継者育成と技術向上のため、研磨技術を指導  
昭和49年 伝統工芸高岡銅器振興協同組合設立に尽力。理事、副理事、監事を歴任し、現在に至る  
昭和56年 高岡伝統産業技巧士に認定  
昭和59年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定  
平成 9年 高岡巧美会会長